（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	さぽな旗の台教室（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2026　年　3　月　1　日	～	2026　年　3 月　20　日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	29	（回答者数）	21
○従業者評価実施期間	2026　年　3　月　1　日	～	2026　年　3 月　20　日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026　年　3　月　28　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学1年生から6年生までが利用し、学年の異なる友達と一緒に遊べる。学校の学級を越えた交流の機会がある。	異学年の遊びを大切にし、職員が仲立ちして、誘い方や順番の守り方を伝える。	異学年のペアや小集団で協力する活動を取り入れ、相手を思いやる関わりを育てる。
2	年齢の異なる友達と関わる環境を生かし、年上の子の姿を見て学ぶ機会や、年下の子に伝える機会をつくれる。	遊びの中で手本を見せる場面や教え合う場面をつくり、互いの良さを認める声かけを行う。	高学年に世話役を固定せず、本人の希望に応じて役割を選べるようにする。低学年にも活躍の場を設ける。
3	小学1年生から6年生までの幅広い興味や得意なことを、遊びや活動の選択肢に生かせる。	子どもの希望を聞き、運動・制作・ルールのある遊びなどから選べる機会を設ける。	参加しやすさや満足度を振り返り、子どもの意見を次の活動づくりにつなげる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同じ活動でも、学年や発達段階によって難易度が合わず、参加しづらさや物足りなさが生じる。	小学1年生から6年生までが在籍し、理解の速さ、集中できる時間、興味や経験に違いがある。	同じテーマで基本課題と発展課題を用意する。学年だけで分けず、理解度や得意不得意に応じた少人数活動を組み合わせる。
2	改善の検討点：説明の長さや活動の進め方によって、待ち時間や集中の途切れが生じる可能性がある。	一斉の説明や同じ手順だけでは、それぞれの理解や取り組む速さに対応しきれない。実際の様子を記録して確認する。	見本や写真で手順を示し、説明を短く区切る。早く終えた子には追加課題、休憩が必要な子には落ち着ける選択肢を用意する。
3	改善の検討点：異学年交流の良さを保ちながら、一人ひとりに合った目標や役割を設定する必要がある。	全員が同じ成果を目指すと個々の達成感に差が出やすく、高学年の役割が偏る可能性もある。	活動前に個別の目標と職員の役割を共有する。活動後は参加の様子と達成感を振り返り、次回のグループや課題を調整する。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	さぽな旗の台教室（放課後等デイサービス）

公表日　2026　年　3　月　28　日

利用児童数　29　回収数　21

仮の記入例：回答数は各項目21件。数値の配分・ご意見は実際の回答ではありません。公表前に原票の内容へ差し替えてください。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応案
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	2	1	0	体を動かす時間と落ち着いて過ごす時間、それぞれに合うスペースがあるとよい	活動人数と内容に応じて机や教材の配置を見直し、移動と遊びのスペースを確保します
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	18	2	1	0	学年や支援の必要度に合わせて、きめ細かく見てもらえると安心	利用人数と支援の必要度に応じた配置を確認し、小集団活動時の担当を明確にします
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	3	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	1	0	0		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16	3	2	0	学年によって活動が難しかったり簡単だったりするため、難易度を調整してほしい	学年だけでなく理解度や得意不得意を把握し、課題の難易度と声かけを変えていきます
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16	3	0	2	支援プログラムと実際の活動のつながりを、具体例で教えてもらえると分かりやすい	公表する支援プログラムと日々の活動の対応を点検し、保護者に具体例で説明していきます
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	2	0	1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	2	0	2		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18	2	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17	3	1	0	異なる学年の友達と遊べるのが良いです。学年や得意なことに合う活動もあるとうれしいです。	異学年交流を生かしつつ、基本課題と発展課題を用意して選択肢を増やす。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	6	5	4	教室の外でも、地域の子どもたちと無理なく交流できる機会があるとよいです。	本人の希望と安全面を踏まえ、地域で交流できる機会を検討します
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	1	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	2	0	0	支援計画の目標や活動内容を、分かりやすい言葉で説明してほしい	計画の目標と具体的な活動を結びつけて説明し、疑問点を確認していきます
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	5	3	3	家庭でもできる声かけや関わり方を学べる機会があると助かります。	家庭での困りごとを把握し、希望に応じた情報提供や学習機会を検討します
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	2	0	0	友達との関わりや活動中の様子を、具体的に教えてもらえるとうれしいです。	連絡帳の中身を充実させて、より分かりやすくお伝えできるようにします

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	2	1	0	定期的な振り返りに加えて、困った時にも相談できると安心です。	相談希望を確認し、目標の振り返りや子育て相談につながる面談機会を検討します
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	1	0	0	家庭での悩みを聞いてもらい、一緒に対応を考えてもらえると心強いです。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	6	4	3		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	2	0	1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	2	0	0	口頭だけでなく、文章や写真でも伝えてもらえると家庭で確認しやすいです。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17	3	0	1	活動予定だけでなく、ねらいや取り組んだ様子も知りたいです。	活動のねらい・予定・評価結果の発信状況を点検し、必要な情報を届きやすくしていきます
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	1	0	1	写真の掲載や個人情報の取扱いについて、事前に確認してもらえると安心です。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	3	1	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	3	0	3	避難訓練でどんなことを練習したのか、家庭でも共有してもらえると助かります。	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	3	0	2	学年による体格差にも配慮して、安全に遊べるよう見守ってほしいです。	教室内の環境も含めて整備していきます
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1	0	3	けがなどがあった時は、状況と対応を速やかに教えてもらえて安心	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	20	1	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19	2	0	0	いろいろな学年の友達と遊べることを大切に、好きな活動を選べるとうれしいです。	好きな遊びや友達との交流を大切にし、本人が活動を選べる機会を増やしていきます
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	2	1	0	異学年で交流できるのは魅力です。一人ひとりに合う活動の難易度を工夫してほしいです。	異学年交流の良さを生かし、難易度の調整と個々の達成感を重視して改善していきます

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	さぼな旗の台教室（放課後等デイサービス）

公表日　2026　年　3　月　28　日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	19	2	活動内容に合わせて机や教材を配置し、遊びと移動の場所を分ける。	利用人数と室内の使い方を点検し、混雑を避ける配置を検討する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	18	3	利用人数や支援ニーズに応じ、担当と見守りの位置を共有する。	難易度別の小集団活動にも対応できる配置を確認する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17	4		低学年にも伝わる表示と、特性に応じた環境調整を検討する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	20	1	清掃と教材整理を行い、活動と休憩の場所を使い分ける。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	4		利用を強制せず、本人の意思と安全な見守りに配慮する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	18	3	職員で目標と振り返りを共有し、改善する項目を絞る。	担当と期限を決め、難易度調整の効果を次の振り返りで確認する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	3	保護者評価の原票を集計し、意見と対応案を職員間で検討する。	実際の集計結果を確認し、改善内容と経過を保護者に伝える。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	3		勤務日が異なる職員の意見も集め、検討結果を共有する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	17		未実施の場合は、評価機関・費用・実施時期を整理する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	17	4	学齢期の発達や集団支援を学び、事例を使って支援方法を検討する。	学んだ内容を実践し、活動の難易度調整に生かす。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19	2		公表状況と更新内容を点検し、家庭に分かりやすく説明する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	19	2	本人・保護者の希望と生活上の様子から、支援目標を検討する。	学年だけで判断せず、理解度・興味・得意不得意を把握する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18	3	関わる職員が観察内容を持ち寄り、本人に合う目標を検討する。	集団での姿と個別場面での姿の両方を計画に反映する。

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	19	2	活動ごとの目標と配慮事項を職員間で共有する。	計画上の目標が日々の声かけや課題設定に結びつくか確認する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	5		得意なことと難しいことを分けて把握し、課題の難易度に反映する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	18	3		家庭や学校での生活に結びつく、具体的な目標を検討する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	18	3	小学1～6年生の異学年交流を生かす活動を、職員で検討する。	基本課題と発展課題を用意し、役割を選べるようにする。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	4	運動・制作・ルールのある遊びなど、興味の異なる活動を用意する。	子どもの意見と参加の様子を参考に、活動内容を更新する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	15	6		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20	1	活動前に当日の内容、配慮事項、担当を確認する。	グループ変更や個別対応が必要になった場合の役割も決める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	18	3	活動後に参加状況や難しかった場面を共有する。	振り返りを次回の課題設定とグループ分けに反映する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	19	2		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19	2	本人・家庭の変化と目標の達成状況を確認する。	モニタリングの実施状況を点検し、必要な計画変更につなげる。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	18	3	遊び、生活、創作、地域での経験などを組み合わせる。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	18	3	選択肢を分かりやすく示し、参加しない・休む意思も尊重する。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	4	支援の様子と課題を整理し、会議で共有する情報を準備する。	参加状況を確認し、会議の内容を日々の支援につなげる。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	4	保護者の同意を確認し、必要な関係機関との連絡方法を整理する。	相談先や役割を明確にし、連携の経過を記録する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	19	2	学校ごとの下校時刻や行事を確認し、連絡内容を職員で共有する。	学校と家庭での様子を把握し、教室での支援に反映する。

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	16	5		本人・保護者の同意のもと、必要な情報の引継ぎを検討する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	15	6		小学生の段階から自立に向けた経験を積み、移行時に情報をつなぐ。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14	7		難易度の調整や集団参加について、必要に応じ助言を求める。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	11		本人の希望、受入先との調整、安全な見守りを確認する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10	11		参加状況を把握し、地域の情報を教室の支援に生かす。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20	1	：遊びや活動の具体的な様子を伝え、家庭の様子も聞く。	難易度の合いにくさと対応方法を共有し、家庭の希望を確認する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	8	家庭の困りごとに合う情報や学習機会を検討する。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20	1		説明した内容を記録し、変更時の案内方法も整理する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19	2	本人が表現しやすい方法で希望を聞き、保護者の意向も確認する。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	20	1	計画の目標と支援内容を具体例で説明し、理解と同意を確認する。	説明・同意・交付の状況を確認し、記録を整える。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20	1	保護者の話を丁寧に聞き、必要な相談や面談につなぐ。	相談後の状況を確認し、必要に応じて関係機関と連携する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	11	10		日時や負担に配慮した交流方法を検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20	1		受付から対応後の確認まで、経過を記録して共有する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	19	2		情報の更新状況を点検し、必要な家庭に届いているか確認する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20	1		職員間で取扱い手順を確認し、誤送信や紛失を防ぐ。

	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	18	3		学年や言語理解の違いに応じて、伝わったか確かめる。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	12		子どもの安心と個人情報に配慮し、無理のない交流から進める。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	18	3	各マニュアルの内容と、職員・家庭への説明状況を確認する。	実施記録を確認し、想定訓練で見つかった課題を反映する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17	4	BCPの整備と避難等の訓練状況を確認する。	休業時の連絡や役割分担を整理し、訓練結果から見直す。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20	1	服薬や発作など、支援上必要な健康情報を保護者に確認する。	情報を更新し、緊急時の対応方法を職員間で共有する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	19	2	アレルギーの有無と、該当する子の医師の指示を確認する。	指示書と提供物の確認方法を整理し、誤提供を防ぐ。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	18	3		体格差のある遊びや運動での危険を整理し、見守りを調整する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	17	4		周知状況を確認し、家庭からの情報も安全対策に生かす。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	18	3	ヒヤリハットの場面と背景を共有する。	異学年の体格差や活動の難易度も含めて、再発防止策を検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19	2	虐待防止の体制と研修・相談窓口の周知状況を確認する。	日々の言葉かけや対応を振り返り、不適切な支援を防ぐ。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	18	3	身体拘束をしない支援を基本に、代わりとなる環境調整を検討する。	例外的対応の要件・判断・説明・記録の手順は管理者が確認する。